

研究計画書

本計画書では、卒業研究の「研究タイトル」「概要」など、研究に関する方向性を絞ることが目的です。
提出されたシートは、担当教員だけではなく、コース教員の共有資料として活用するので、わかりやすく丁寧に記入してください。

氏名（ふりがな） 佐藤楓佳（さとうふうか）	学籍番号 2211046	コース 人間空間デザイン	指導教員 齊藤雅也
タイトル 水の居場所と都市を潤す共生のデザイン		サブタイトル 札幌におけるグリーン・ウォーターゾーンの創出と水循環	
研究の形式 論文主体・制作主体	関連キーワード 水害 / 水循環 / グリーン・ウォーターゾーン / 北海道		

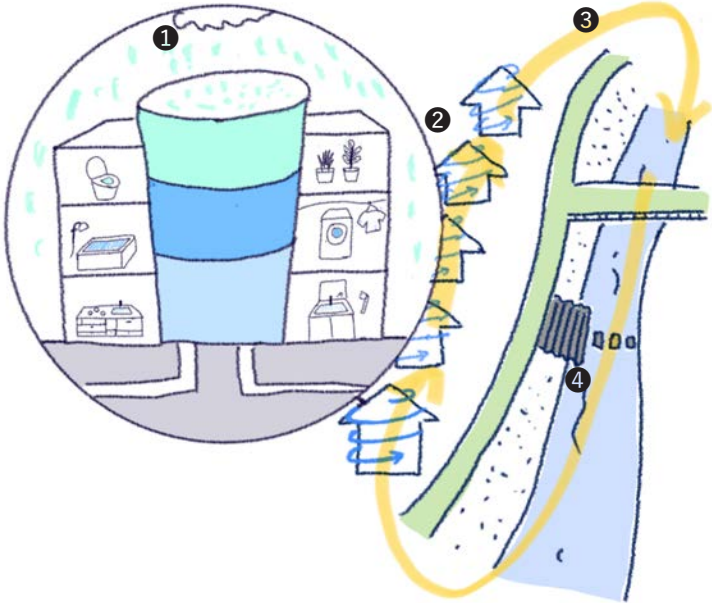
●研究の概要

研究の目的、研究方法、研究のスケジュールなどを、文章だけではなく図やイラスト、表を交えて記入してください。

1. 研究背景・目的

気象庁の「日本の気候変動 2025」によると、地球温暖化が現在以上に進んだ場合、21 世紀末には大雨の発生頻度の増加、積雪・降雪量の減少が予測されている。既に、近年でも国内外では集中豪雨による被害が大きく出ている一方で、今後の積雪・降雪量の減少は夏場の水不足をもたらすとされ、水害・水需要に対する対策が急務とされている。しかしながら、水害対策の多くは、土木分野における河川、水路、道路などのインフラ機能の維持を目標としたもので、建築分野が担うべき役割が明確ではない状況にある。また水不足を緩和して水供給を確保する抜本的な対策も北海道、札幌市においては十分に示されていない。

本研究では、水害・水不足が発生する環境を日常と捉え直し、都市を巡る水と共生できる建築群（以下、群居）をデザイン提案することを目的とする。具体的には、藻岩山の麓で豊平川に繋がる札幌市中央区（山鼻・伏見地区）を対象として、循環する水と共生するために建築に必要なとされる条件を明らかにした上で、対象地区全体の建築群（以下、群居）と山、川、土壌との関係をデザイン提案する。得られた成果は、展示やメディアへの発表を通じて、札幌市民を始め、北海道、札幌市の水対策に関わるステークホルダーに提示し、評価を踏まえて改良を加える方針とする。



本研究で取り組む水害対策と水循環のイメージ

2. 研究方法

以下の手順で進める。

- ①札幌市全体の降雨・降雪量・水害の予測調査
- ②対象地区全体の水需要の予測
- ③群居の水循環の流れのデザイン（グリーン・ウォーターゾーンの可視化）
- ④親水と水害対策のバランスの確認
- ⑤デザイン提案と成果の公表、評価・改善提案

基本方針として、21 世紀末（今後 75 年間）までに予想される積雪量の減少と降雨量の増加から、対象地区全体におけるそれぞれの建築用途に応じた水需要を踏まえて、個々の建築の水循環、群居の水循環の流れを定量化する。一般に、治水には土木の工事がほとんどを担っていて、親水域を十分に確保できない空間が多いため、「グリーンインフラ」をキーワードにして自然を活かした親水空間（グリーン・ウォーターゾーンと命名）を検討する。また、個々の建築及び群居においては、建築外皮そのものに水循環システムを採り入れ、雨水・雪水の積極的に活用する。最終的には制作としてまとめて展示やメディア発表を通じて市民をはじめ地域社会に対して発信する。

3. 研究スケジュール

5	6	7	8	9	10	11	12	1
既往研究・事例調査	設計	制作	提出					研究発表 修正 最終提出
	梗概	中間発表	論文	提出				

指導教員へ提出

提出方法は指導教員の指示に従ってください。